

| 事業区分 | 文化芸術事業 | | 鑑賞事業 | |
|--|---|------------------------|---------------|-----------------------|
| 事業名 | 文楽公演 【昼の部】 仮名手本忠臣蔵、釣女 【夜の部】 曾根崎心中 | | | |
| 目的・内容 | 県内では鑑賞する機会の少ない日本の代表的な古典芸能「文楽」の鑑賞機会の提供を目的とする。太夫・三味線・人形の三位一体で醸し出す伝統芸の素晴らしさを体感し、広く県民が古典芸能に触れることで、鑑賞者の拡大を図る。 | | | |
| 開催日時 | 平成23年2月27日(日) 【昼の部】開演13:30 【夜の部】開演18:00 | | | |
| 会場 | 鳥取市民会館 大ホール | | | |
| 入場料 (友の会・団体) | 一等席 4,000円 (3,500円) | 二等席 3,500円 (3,000円) | 三等席 1,000円 | 大学生以下・外国籍の方 1,500円 |
| 集客状況 | 入場者数 822名 | 設定席数 1,844席 | 集客率 45% | |
| 事業費状況 | 予算額 | 収入 4,573,000円 | 支出 4,395,000円 | 収支比率 104% |
| | 決算額 | 収入 2,947,350円 | 支出 4,141,133円 | 収支比率 71% |
| 来場者アンケート (主なもの) 回答者数 305名 | <ul style="list-style-type: none"> ・初めて文楽を見たがおもしろかった。人形の芸が細かく感心した。 ・本物を観る機会が地方で持つことができ良いと思う。 ・人形の細やかな動きが太夫・三味線と一体となっているのが感じられ、映像では味わえない感動がありました。 ・初めにあらすじの説明があったのでわかりやすかった。 ・イベントがあったのも良かった。 ・ロビーに人形が一体でも展示してあれば、よくわかって良かったと思う。 ・プログラムがなかった。 ・もう少しPRした方が良い。 | | | |
| 1次評価 (内部) | <p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典芸能を初めて鑑賞した方が44.9%、他の古典芸能は鑑賞経験があっても文楽の鑑賞は初めての方はそれ以上みられ、新規顧客の獲得に繋げることができた。 <p>[課題等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内では鑑賞する機会の少ない文楽の公演であり、もう少し多くの人の鑑賞を期待したが予想以上に厳しい結果となった。 ・ある一つの古典芸能をきっかけに、他の古典芸能も鑑賞していただけるような工夫や仕掛けが必要である。 ・初めて鑑賞された方が4割を超えているが、来年度東部地区において古典芸能公演がない中、どう繋いでいくかが課題である。 | | | |
| 2次評価 (財団評議員) | <p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビ、新聞でアピールし、外国籍の人、大学生への配慮は評価できる。また、受けの対応も好評であった。 ・市の財団との連携や、対象を絞った戦略等、積極的な工夫が見られた。 ・観劇の楽しみのひとつとして、特製弁当の販売や、会場に設けられた飲食スペースは良い試みであったと思う。 <p>[課題等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的な活動(公演のみならず、ワークショップやレクチャー、あるいは映像資料を使った鑑賞など)が必要である。 ・「公演を何で知ったか」というアンケートでは「口コミ」が最も多かった。小さな街の条件を生かしたアピールが望まれる。チラシやマスコミに頼るばかりでなく、演劇関係者等への協力体制も検討すべきである。 | | | |
| 今後の対応、 取組状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・観客が常に古典芸能を鑑賞できるよう事業構成や、今回のアンケート回答者やDM送付者などに対して、関係を継続できる良い手立てがないか検討していく。 ・公演に協力が得られそうな団体には事業の計画段階でアプローチを行って協力を依頼するとともに、継続的な関係を構築して、協力団体を広げるようにしていく。 | | | |